

目

次

(氏名いろは順)

小村俊一君	松浦立身君	山本猪平君	梅村友清君	長友昇君	谷口量衛君	谷口仁七君	横山良光君	川越龜一郎君	川添勇太郎君	服部勝一君	飯田輝夫君	肥町の部
五	五	四	四	三	三	三	三	三	三	八	四	部
小玉傳右衛門君	深見間瀬也君	松野義行君	矢野克巳君	落合瀧水君	中村喜平君	田中源吉君	高崎實也君	高橋源次郎君	川越基弘君	風早喜一郎君	堀内善九郎君	壹岐宗明君
三	五	五	四	四	三	三	三	三	三	三	九	一
後藤基忠君	藤本嘉平次君	松田重正君	山之城貫一君	小野温雄君	村浦藏六君	中村淳美君	高橋藤平君	高山眞平君	加藤克巳君	川添純藏君	和田傳君	伊東祐平君
六	五	四	四	四	四	三	三	三	三	四	二	二

太田原義俊君	谷村の部	河瀬勝三郎君	戸村の部	右松尙治君	河野喜太郎君	田村の部	藤井嘉七君	野崎淨禪君	河野宗太郎君	津町の部	鈴木得一君	兒玉與兵衛君	齋藤常實君	兒玉孝輔君	郡文吾君
二四	二六	二八	二二	二八	二〇	二〇	二〇	九	九	八	八	八	五	七〇	七〇
長尾福實君	竹本友三郎君	酒衛勘一君	伊東峻次郎君	平島直正君	高橋勵君	岩下定巳君	樋口忠七君	山崎力馬君	河合淺次郎君	西吉彦君	杉元房吉君	宮川廣吉君	佐土原玉樹君	有田源太郎君	小村良平君
三五	三三	二八	二六	二三	一九	一五	一三	九	八	八	三	三	七	七	六
松田	高山善吉君	湯淺伊三郎君	太田原長七君	安井順平君	中田安市君	河野榮三郎君	梶島良一君	長尾五平君	外山三藏君	平部俊弘君	佐土原久馬君	齋藤實明君	齋藤實明君	齋藤實明君	小玉二平君
二六	二三	二九	二七	二五	二〇	一六	一〇	九	八	八	七	七	七	七	六

北郷村の部	伊東岩男君二七	吉賀幸四郎君二六
長岡孝成君二九	川添寅四郎君二〇	丸山茂木君二三
東郷村の部	外山彌三郎君一四	横山益江君一五
郡司萬三郎君一七		
細田村の部	吉富久藏君一元	吉富久孝君一四〇
谷口初次郎君一四二	黒木格夫君一四三	藤浦藤太郎君一四四
近藤宗七君一四六	安藤彌市君一四七	阪元文市君一四八
日高猪太郎君一四九	酒井市郎君一五〇	
南郷村の部	岩切彌兵衛君一五一	岩瀨義行君一五二
西村傳作君一五三	贊田藤平君一五五	細田友被君一五五
土岐義文君一五七	富元志摩吉君一五六	河野米市君一五九
管野眞俊君一六〇	香川虎彦君一六一	河野宇市君一六二
河野治作君一六四	田中與次郎君一六五	谷口與相次君一六六
安光謀備君一六七	山崎清一郎君一六九	山下彌三郎君一七〇
山下喜右衛門君一七〇	藤井新君一七一	古澤久治君一七三
古澤熊藏君一七五	兒玉行清君一七七	近藤喜八君一七八

合屋淺平君一七九	安藤治助君一八一	安樂源太郎君一八二
崎村俊一君一八三	安藤龜次君一八四	崎村兵三郎君一八六
阪元平輔君一八七	阪元熊治君一八八	甲斐久太郎君一八九
岡部寛次郎君一九〇	長友藤被君一九一	中山治三郎君一九三
島田松巖君一九四	平原常次君一九五	酒井繁市君一九七
鈴木寅市君一九七		
原村の部	門口喜平君二〇七	多田卯市君二〇八
宮川柳平君二〇九	下村長成君二一一	平部正人君二二三
河崎多七郎君二三三		
市村の部	岩下祐幸君二二五	鶴田利幸君二二六
津江仲藏君二二七	安藤鹿治君二二八	日高助太郎君二二九
黒木武行君二二九		
大東村の部	谷口清吉君三三三	内田貞助君三三三
坂田榮作君三三三	木脇均君三四四	清水萬吉君三三五
森關藏君三七七		

九尾重	門川盛	井村の	島田傳	城村の	木島頼	神戶政	福島村	山田藤	北方村
久君	一君	部	一君	部	正君	七君	部	市君	の部
二六二	二五九		二四八		二四二	二二七		二二二	
日高藏	門川盛	野邊幾	山内賤	水元	深江忠	吉松忠	神戶政	松田禎	谷口巳
吉君	藏君	衛君	夫君	潔君	豐君	俊君	次君	雄君	行君
二六四	二六〇	二五〇	二四九	二四六	二四三	二二九	二二五	二二三	二二〇
田中由	石上忠	島田盛	寶珠山	山内武	山下虎	鈴木春	鈴木春	鈴木春	山内泰
幸君	次郎君	衛君	瀧	彦君	雄君	台君	台君	台君	三君
二六一	二五九	二四七	二四四	二四〇	二三六	二二四	二二四	二二二	

飲肥尋常高等小學校訓導 壹岐宗明君

仰て男鈴小松の麗峰俯して酒谷の清流に臨み、以て之を活きたる教育の資料に供せらるゝは實に我壹岐君に由つて之れを見るを得たり、君は明治三十七年師範學校卒業同時同校男子部に訓導として職を奉ずること十七ヶ年勤續更に大正十年同校女子部に首席たり即現職なり、教授主義は一事項の改善實行を果して後漸次他事項に進み以て大綱を總括するに力め必要に迫られたる問題より研究着手するに於て常に之が機宜を認らず成べく少量に授けて多量に知らしめんことを期し形式を避け實力の養成に重きを置き個性適應の教授啓發に留意して劣等兒の爲には特に盡力すと云ふ、君女兒部に職を奉ずるや今後の女子教育は如何なる方向を取るか或は取らねばならぬかは今後の社會が如何に進動するかを考察推定して始めて決定することが出来る併し普遍的常識の開發を主とする今日の普通教育には昔の如き人物養成本位の粗大教育法の容れられざることは勿論なるも餘りに過度なる繁瑣教育も又一考の價なきにあらずとし先づ男子は暫く措き女兒に在ては或方面に少くとも家庭整理上尙ほ一段の繁瑣的管理訓練の必要を思はしむるものあり、君は茲に留意し校長補佐の傍らあらゆる女子の缺點を洞察し之が救済の策を考案し將來の家庭に於ける常識の養成幼者に對する愛情の發達不潔